

研究課題：歯周病と認知症の関連に関する研究 —ながはまスタディー—

研究者名：福原紫津子、高橋 克、浅井啓太、山口昭彦、別所和久

所属：京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野

抄録本文：

【背景】認知症は、認知機能、行動、および心理的状态を含む、精神的健康の複数の側面に影響を与える可能性のある疾患である。認知症は、一度発症すると治療が困難であるため、発症予防が最重要課題である。近年では、口腔内の健康と、認知機能との関連についてのエビデンスが集積されつつある。今回われわれは、軽度認知障害 Mild Cognitive Impairment : MCI と口腔内因子との関連について検討した。

【対象および方法】本研究では、滋賀県長浜市在住の市民で 2012 年～2017 年にながはま 0 次予防コホート事業に参加した者のうち、MCI 検査や歯科検診などのデータが全て揃っている 4,708 名を対象とした。研究デザインは横断研究とした。残存歯数、アイヒナー分類による咬合支持域数と、軽度認知機能検査 MCI Screen (MEDICAL CARE CORPORATION) の総合評価、項目別評価との関連を総合的に、統計学的に調査した。年齢、性別、BMI、HbA1c、喫煙 (プリンクマン指数)、アルコール摂取量、収縮期血圧、脳卒中病歴、歯磨回数、歯磨時間で調整した多変量ロジスティック回帰分析を行った。

【結果】残存歯数と MCI 総合評価との関連は、OR 0.99, 95%CI (0.98 to 0.99)、アイヒナー分類と、MCI 総合評価異常有りの関連は、アイヒナー分類 C 群 (C1～C3) が、OR 1.38, 95%CI (1.10 to 1.72) で有意な関連を認めた (アイヒナー分類 A 群 ; A1～A3 が Reference)。一方、結果変数を検査項目別評価として同様の解析を行ったところ、いずれも有意な関連は認めなかった。次に、男女別に層別解析を行ったところ、男性において、残存歯数と MCI 総合評価との関連は、OR 0.99, 95%CI (0.97 to 0.99)、アイヒナー分類と、MCI 総合評価との関連は、アイヒナー分類 C 群 (C1～C3) が、OR 1.44, 95%CI (1.04 to 1.99) で有意な関連を認めた (アイヒナー分類 A 群 ; A1～A3 が Reference)。一方、女性では、いずれも有意な関連を認めなかった。

【考察】認知機能低下のリスク因子として、糖尿病、喫煙、血圧などが挙げられているが、これらの因子で調整後にも、残存歯数と MCI 総合評価、アイヒナー C 群と MCI 総合評価には有意な関連を認めた。この結果は、認知機能と咀嚼機能に関する既報告の結果を裏付けると考えられる。今後、因果関係を明らかにする為に、より詳細な因子について検討した縦断研究を行っていく予定である。